

2024年11月24日（日）第二礼拝「イエス様を受け入れた人」ヨハネ1章1～14節

イエス様を受け入れた人は皆救われます。ユダヤ人であろうと、異邦人であろうと関係ありません。イエス様は救い主だからです。「しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。」（ヨハネ1：12）

第一番目、どのようにイエス様を受け入れるのでしょうか。「見よ。わたしは、戸の外に立ってたたく。だれでも、わたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしは、彼のところに入って、彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする。」（黙示録3：20）イエス様は私たちの心の戸の外に立って、私たちが戸を開けるのを待っておられます。イエス様は無理に戸を開けられません。私たちの自由意志を尊重されます。「門を開ける」とは、戦争において町の城門をあけること、つまり「降伏」を意味します。それは、将軍がやって来て、町を征服し、その町の新しい統治者になるということです。同様に、私たちがイエス様に心の戸をあける時、イエス様が私たちの人生の主人になられ、私たちを治めてくださいます。

第二番目、イエス様の名を信じた人です。「初めに、ことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。すべてのものは、この方によって造られた。…」（ヨハネ1：1～3）イエス様はことばであり、すべてのものを造られた創造主です。そのイエス様が私たちのために人となって来られました。「ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。私たちはこの方の栄光を見た。…」（ヨハネ1：14）イエス様の名前の意味は、民の罪を救う方（救い主）という意味です。イエス様は私たちのために十字架につけられ、死んで、よみがえられました。イエス様がこの地上に来られたのは、私たちの救いのためなのです。イエス様は私たちの罪を背負い、ご自身は罪となられ、代わりにイエス様の義を私たちに与えてくださいました。そのことを信じる人は義と認められます。これは、私たちの努力や能力によるものではありません。イエス様のなされた御業を信じる信仰によって義と認められるのです。「イエス様を受け入れた人」とは、「イエス様の名を信じた人」のことなのです。

第三番目、神の子どもとされる特権です。「神の子どもの特権」とは、罪と死から完全に解放され、永遠の御国を受け継ぎ、天の神様を「アバ父」と呼ぶことができる特権であります。天国はあちら、こちらにあるのではなく、私たちのただ中にあり、御霊による義、喜び、平安が満ちています。一生涯、死の恐怖につながれ、奴隷となっていた私たちを、イエス様が解放してくださいました。「…この幕屋を脱ぎたいと思うからでなく、かえって天からの住まいを着たいからです。…死ぬべき者がいのちにのまれてしまうためです。」（Ⅱコリント5：4）イエス様は永遠のいのちであり、イエス様を信じる者には、死の実体がありません。心臓が止まり、死ぬ瞬間、いのちの君であるイエス様が即座に私たちを包み、御国に移してくださいます。死とは、永遠のいのちに入る祝福の門なのです。そのことを信じる私たちのうちには、永遠のいのちであるイエス様がおられるので、死の恐れにのまれることはないのです。「まことの成功」とは、「死」を「いのちへの祝福」だと信じることです。アーメン！